

論文内容の要旨

氏名 稲垣 文彦

本研究では、中越地震の復興プロセスの分析から、被災地復興における住民の主体性獲得プロセスを明らかにしてきた。

第2章では、まずは新潟県中越大震災復興基金施策の申請件数と助成金額の分析より、震災から4年間の復興プロセスを明らかにし、つぎに長岡市川口地区住民を対象としたアンケート調査と同地区木沢・峠集落の復興活動と支援活動の整理・分析より、集落の復興活動では、外部主導の活動が時間経過のなかで内部主導に変化していく過程、支援活動では、専門家ではない支援者が住民との協働作業と話し合いを繰り返すなかで住民の主体性を引き出す支援（支援1）と専門家の技術的支援（支援2）が段階的に行われていたことが確認でき、この一連の取り組みが住民意識に影響を及ぼしていることを明らかにした。またこの復興プロセスを経た住民意識の変化を生活の安心感を形成しようとするプロセス（無知型安心状態→震災→無知型不安状態→支援1→能動型不安状態→支援2→能動型安心の状態を目指すプロセス）と捉え、考察した。

第3章では、まずは被災集落における地域リーダーのヒアリング調査から、アンケート調査に答えた復興意識とヒアリング調査で答えた復興感が必ずしも一致しないことを明らかにし、その後の複数住民のヒアリング調査から、それには地域の喪失感が関係していること、また喪失感の違いによって復興活動の指向性が違い、その活動と成果の有無により地域の復興感に違いがあること、そして地域の喪失感を補うのは、住民の当事者意識であることを明らかにした。つぎに近年の我が国における農村地域政策の新展開と中越地震からの復興施策の展開を比較し、その二つには類似性があること、その類似性は、ガバメントからガバナンスへ、中央政府から地方政府への転換であること、そしてこの二つの転換が背景となって、住民の当事者意識が醸成されたことに言及した。

第4章では、まずは2016年現在でも住民主体の地域づくりが継続している複数集落の復興プロセスの分析から、継続している集落の復興プロセスは、第2章で考えられたプロセス（無知型安心状態→震災→無知型不安状態→支援1→能動型不安状態→支援2→能動型安心の状態を目指すプロセス）と同様であったこと、また第2章で示された住民の主体性を引き出す意図をもつ「専門家ではない支援者」が協働作業や話し合いを繰り返すこと（支援1）が、同様に行われていたことを確認した。そして無知型安心状態→震災→無知型不安状態→支援1→能動型不安状態→支援2→能動型安心の状態を目指すプロセスの平均的な所要期間は、無知型不安状態→支援1→能動型不安状態が30か月、その後の地域復興デザイン策定が概ね24か月、合計で54か月かけられていること、そのうち、地域づくりの取り組み開始から18.7か月は、支援1のみが行われ、推測では、住民の主体性の萌芽を確認できるまで9か月かかっていたことを明らかにした。つぎに震災前に地域づくりに取り組んでいた集落と震災前に地域づくりに取り組んでいない集落の復興プロセスの比較から、震災前の住民主体の地域づくりの取り組みは、震災後の復興の取り組みに影響を及ぼし、推測では、復興の取り組みの立ち上がりを半年から1年早めていたことを明らかにした。

以上のことから、被災地復興における住民の主体性獲得のプロセスには長い時間がかか

ること、またそのプロセスには段階（1.住民の依存心や諦め感を払拭し主体性を醸成する段階、2.住民の主体性と共通認識が生まれる段階、）があること、そして1、2.段階に合わせた外部者の関与、小さな成功体験、共通体験を積み重ね、住民の主体性と共通認識を生み出す「寄り添い型支援」が必要なこと、加えてこの段階を経た後に3.集落の維持・活性化に向けた継続的な活動を進める段階があり、その段階では、住民の共通認識のもとにつくられた将来ビジョンに基づく事業計画策定や実行に対する「事業導入型支援」が必要なことを明らかにした。

第5章では、まずは第4章で明らかになった住民の主体性獲得プロセスは、震災復興に留まらず平時の農山漁村の集落再生の考え方に影響を与えていること、国の過疎対策としての集落支援員制度、地域おこし協力隊制度、更には2015年6月30日に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生基本方針2015」の農山漁村に関わる事項として示された小さな拠点の形成（集落生活圏の維持）は、第4章で明らかになった考え方がベースにあることに言及した、つぎに第4章で明らかになった住民の主体性獲得プロセスをもとに、2016年現在多くの自治体で導入されている地域おこし協力隊制度のマネジメントを担当する自治体職員の目線から、自治体のビジョンづくりから制度導入、導入後のPDCAサイクル、そして定住支援までの一連のプロセスを時系列でシミュレーションするなかで、自治体が考慮すべきポイントを指摘した。